



県内にお住まいの65歳以上の皆さんに、交通安全意識を高めていただくとともに、耳慣れた秋田弁を活用して広く県民に交通事故防止を呼びかけるため、「交通安全作品コンクール」として、あきた弁を使った川柳を募集しました。応募作品57句(応募者54人)の中から、入選作品を紹介します。

あきた弁の“味ッコ”をじっくり堪能してたんせ！



最優秀賞

どごみでる あだりよく見れ 人いるど
(どこ見てる 周りをよく見て 人いるよ)

優秀賞

えふりでね 光る服(ふぐ)着て 身を守れ
(格好つけているんじゃないよ 反射する洋服を着て 自身を守りましょう)

佳作

どしめぐな ジサとバツパは 手こつなげ
(横断歩道を渡る時、爺さんと婆さんは誰かと手を つなぎましょう (家族なら最高です))

越されても きもやがねでや ゆずりあい
(後車から追い越されても、ゆずり合いの気持ちで)

とおぎても 横断歩道が わを守る
(遠くても 横断歩道が 自分を守る)

青信号 んだどもオラは みぎひだり
(青信号 だけれど私は 右左)

ふみまちがい こえんて免許 かえすつた
(踏みまちがい (アクセルとブレーキ) がおっかないから 免許を返します)

横手市

成田 キヨ子さん

鹿角市

柳沢 富士子さん

横手市

木村 レツさん

鹿角市

石川 セイ子さん

由利本荘市

鎌田 次男さん

横手市

成田 稔さん

能代市

佐藤 恵美子さん

総 評

山崎 如醉

秋田県人である私でも、初めて聞くような秋田弁があり驚くとともにその出会いに感謝する。標語をただ秋田弁にするのでは面白くない。一応「あきた弁川柳」とあるので、川柳としての要素を取り入れて欲しかった作品も見受けられた。審査員五人の加点方式（最優秀賞三点・優秀賞二点・佳作一点）で入賞者を決定した。

各句の講評

最優秀賞

「どごみでる あだりよく見え 人いるど」

特に薄暮時のことを言っているのだろう。また、川柳的に言えば、子や孫のちよつとした変化も見逃すなという意味も込められている。

優秀賞

「えふりでね 光る服（ふぐ）着て 身を守れ」

最優秀賞はドライバー側、この句は歩行者側から見た句。光る服で、街中を歩くにはちよつと恥ずかしい気もするが、命には代えられない。

佳作

「どしめぐな ジサとバツパは 手こつなげ」

横断歩道を渡る時も手をつないで渡りましょうという交通安全を詠みながら、また一方で夫婦仲良くこれからも手をつないで生きていこうという思いが入っている。私が付けた最高点。これぞ川柳。

「越されても きもやがねでや ゆずりあい」

追い越されれば高齢者でもカッカする人がいる。譲り合えば事故もトラブルも起きない人生も同じ。他人はどうあれ、迷惑を掛けない程度のマイペースで行こうという気持ちも感じとれる。

「とおぎても 横断歩道が わを守る」

ドライバーの注意力も、横断歩道となればいくらか高くなる。「急がば回れ」である。

「青信号 んだどもオラは みぎひだり」

ドライバー側も信号を守っているとは限らないから、再確認する気持ちが大切。人生においても信じるだけではなく、時には疑ってみることも大切（オレオレ詐欺など）。

「ふみまちがい こえんて免許 かえすつた」

高級官僚だった超高齢の人が母子を死亡させる事故を起こした。高齢による操作ミスである。「転ばぬ先の杖」だ。家族に迷惑を掛けぬためにも。



令和6年度 交通安全作品コンクール「あきた弁川柳」審査会委員

山崎 如醉	「あきたの文芸」川柳部門選考委員
伊藤 主税	一般社団法人秋田県交通安全協会専務理事
古屋 桃香	秋田県教育庁生涯学習課長
古屋 建一	秋田県警察本部交通部交通安全企画課長
米田 裕之	秋田県生活環境部県民生活課長